

# 脳裏に焼きつく記憶

## 次世代へと語り継ぎたい



二宮 健三 **Ninomiya Kenzo**  
77歳 下大野

した。

当時、その場所には大きな松が生えていたのですが、爆弾の衝撃で真ん中からぱっくりと割れてしまっていました。そのとき私は小学校3年生でしたが、今もあの日の光景はしっかりと頭の中に焼き付き、忘れることはできません。

結局その日、下大野地区には4発の爆弾が落とされました。坂立の山、下大野上組の「おとなし(通称)」奥の山、河内神社の上の山、下大野中組「すずい、だね(通称)」。

**突然の爆弾投下**  
昭和20年8月14日の午前9時過ぎのことです。その日はちょうど下大野大泉寺施餓鬼念仏の日でした。家の中にいると突然、飛行機が上空を飛来する音が響き渡りました。私は母と一緒に外に飛び出し、空を見上げました。すると何十機、いやそれ以上の数のアメリカ力のB29の飛行機が連なっており、御開山方面から飛んできました。

そのあまりの光景に唾然としていたとき、そのうちの1機がピカッと光りました。そして次の瞬間、ドカンと聞いたことのないような大きな音を立てて、向かいの山に爆弾が落とされました。飛行機が飛び去った後、私は父と近所の大人、子ども数人と一緒に山に登り、爆弾が落ちた場所を見に行きました。そこには5×6畳もの大きな穴、深さも3畳以上あったように見えます。

爆弾が落とされたとき、私の弟は友達数人と一緒に河内神社前の川で泳いでいました。川の至るところに爆弾の破片が飛んでいましたが、幸いなことにケガをした人は一人もいませんでした。4発もの爆弾が落とされたにも関わらず、誰一人としてケガをしなかったのは、不幸中の幸いだったのでしょうか。当時、その爆弾の破片を拾って帰っていましたので、もしかしたら今も家の床の下に残っているかもしれません。

しかし、それなりに距離があったにも関わらず、我が家の障子は、爆風で何枚か壊れてしまいました。また我が家以外にも、上組の何軒かの家が、障子が壊されたと聞きました。それぐらい爆弾が落とされたときの爆風の衝撃が大きかったです。母はその後も紐で棧を直しながら使っていましたので、今でも3×4枚程、当時の障子が残っています。

### 伝えていく義務

戦時中、4年間ほど満州へと出征していた私の父は、生前、何度もそのときの話を聞かせてくれました。

満州の寒さの厳しき、いつ命を落とすか分からない恐怖、そして、命を奪い合うことの重さ、全てが「命がけの戦い」だったと。

あの爆弾投下から、そして終戦から68年の歳月が過ぎました。私は今も、あの戦争で経験したさまざまなことを忘れることができません。



爆風で壊された障子の棧。折れていない箇所にも、至るところにヒビが入り、その爆風の衝撃を伝えている

戦争を経験し、戦争の怖さを目の当たりにしてきた私、そして、父から戦地の怖さを何度も聞かされてきた私だからこそ、この経験を次世代へと伝えていかなければと感じています。それが、「二度と同じ過ちを繰り返してほしくない」と願う、私たち戦争経験者の義務でもあると思うからです。